

令和7年3月11日

足立区立六月中学校  
校長 宮下みどり殿

六月中学校 学校運営協議会  
開かれた学校づくり協議会  
会長 芦川一男

## 令和6年度 学校関係者評価書

### はじめに

令和6年度、生徒たちはスケジュール通りの落ち着いた学校生活を過ごすことが出来た。着任3年目の宮下校長はじめ教職員の全スタッフが努力し、学校生活に落ち着きと活性化が戻ってきたように感じられる1年となった。

### 重点取り組み事項（1）学力向上アクションプラン

#### （ア）先生方のタブレット活用能力向上

六月中はICTモデル校としてタブレットを積極的に活用した授業を行ってきた。生徒たちもそれに慣れてきて、授業の理解に役立ちつつある。ますます進化するクロームブックの活用も、個々の生徒の実情に合った指導をお願いしたい。

#### （イ）家庭学習の充実

家庭学習は、家庭での学習の習慣化が出来ているかどうかを示すものであり、それが学力差となって表れてくる重要なものである。家庭学習の習慣化は家族全員の理解・協力など家庭環境にも大きく左右される面があることは理解できるが、本人の自覚が前提となるものである。自宅学習する楽しさを体験できるよう、日ごろ芦川会長が述べている「励まして、祈る」という思いで先生方による個々の生徒の実情に沿った声かけを期待している。

## 重点取り組み事項（２）キャリア教育の推進

生徒は 「自分のなりたい職業、興味のある職業がある」

「自分の好きな仕事につけるよう勉強したい」

という項目に高い関心を払っているが、具体的にどうしたらいいかは迷っているようである。

自分の仕事を決めるのに、具体的な職業を持った社会人との出会いに影響を受けたということはよく聞く話である。

校長先生は社会人との出会いの場を生徒に与えたいということを述べている。いろいろなチャンスをとらえてインパクトのある出会いの場を提供していただけたらと願うものである。

## 重点取り組み事項（３）心の教育の充実

### （ア）各生徒の自尊感情や自己肯定感について

年２回実施のQU調査の結果が示されている。本校におけるアンケートでは目標数値は84.8%、また生徒と保護者の学校生活の満足度は9割と大変高い数字が出ている。生徒と先生の「やり取り帳」や、12月末の「エール週間」を通じて生徒とのコミュニケーションを深めていることは生徒の心の充実に刺激すると思われる。

### （イ）いじめ問題

生徒や保護者のアンケートから見て生徒会や人権教育、ポスター掲示などの日頃の活動がしっかりと定着出来ている。いじめがないという回答が95%と高くなっており、近年この数字が安定していることがそのことを物語っている。

### （ウ）不登校生徒への対応

不適応・不登校生の数が全国で36万人と増えて、不登校生徒に対する取り組みが大きな課題となっている。本校の長年にわたるこの問題との取り組みはこれまでも各方面から評価を受けてきたが、今年度の三校連携の学習会は「行きたくなる学校とは」というテーマを掲げて多様化する不登校について努力している現場の事例を学んだ。次なる段階としては、その成果を「学びの多様化の報告書」として各方面で共有化が図られることを願うものである。

以上